

# QI ニュース Vol.3

平成 26 年 2 月 18 日発行

発行責任者 川原 順子

皆様のおかげをもちまして、QI ニュースも第3号です！！ 昨年末には、前橋赤十字病院の副院長、阿部 毅彦先生をお迎えし、『医療の質向上の取り組み』についてご講演いただきました。医療の質について考えるよい機会になったのではないのでしょうか。



QI ニュース第3号では、当院の平成24年度4月～9月の医療の質評価項目の抽出結果と、平岩院長から「医療の質について」のお話をお知らせします。



## 『医療の質を考える』

院長 平岩 善雄



質の高い医療を提供するとか、うちの病院は質が高いなどの言葉をよく耳にするのですが、質とは何ぞやと問われると答えに困るのです。そのようなことでは問題ですので、当院では一昨年川原先生を委員長とした医療の質向上委員会を立ち上げました。Quality Indicator(QI)の選定・評価・分析や医療の質を向上させる勉強会・研究会を開催することが主たる業務です。

さて、QIを選定することは容易ですが、実際に評価指標を出すとなると大変です。ただDPCデータを活用して一部評価指数をだすことも可能で、国立病院機構に準じたQI(15項目)の内、当社が提供してくれた当院のQIは以下のとおりです。乳癌(ステージ1)の患者に対する乳房温存手術の施行率71.4%、人工関節置換率・人工骨頭挿入術における抗菌薬予防投与の3日以内中止率96.3%、出血性胃十二指腸潰瘍に対する内視鏡的治療の施行率68.3%、PCIを施行した患者(救急車搬送)の入院死亡率7.5%、急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率(入院から4日以内)78.6%、手術ありの患者における肺血栓塞栓症の発生率0.09%などです。このように、QIをDPCデータから容易に抽出することは可能ですが、独自にあらかじめ計画を立てて集計しないと出せないQIも多く存在します。医療の質向上委員会の活動に期待しています。

QIの取扱に関して注意すべきこととして、QIは各施設の順位付けでないことを認識し経時的にQIを評価・分析しその施設の質の向上に繋げることが肝要です。





富山赤十字病院 医療の質評価向上に関わる指標

No.	項目	平成25年4月～ 平成25年9月調べ		解 説	
		分子/分母	(%)		
1	高齢患者(75歳以上)における褥瘡対策の実施率(カルテ等から把握)	536/574	93.4%	褥瘡が発生しやすい高齢の入院患者さんに対して、予防対策を行っている割合で評価します。	
2	高齢患者(75歳以上)におけるⅡ度以上の褥瘡の院内発生率	24/7,027	0.3%	浅い潰瘍が現れる褥瘡の初期の発生率をみたもので、褥瘡対策がうまく行われているかを評価します。	
3	術後の大腿骨頸部/転子部骨折の発生率	0/18,205	0.0%	手術後は活動が制限されバランスを崩しやすい状態です。転倒すると発生しやすい大腿骨頸部/転子部骨折の発生率をみたものです。これにより、術後の転倒対策がうまく行われているかを評価します。	
4	急性脳梗塞患者に対する早期リハビリテーション開始率	79/85	92.9%	脳梗塞は、早期のリハビリテーションが重要です。脳梗塞の後遺症で寝たきりになり、筋力の低下、関節が動かなくなることを、リハビリテーションにより防止します。入院してから4日以内にリハビリテーションが開始された割合で評価します。	
5	急性脳梗塞患者に対する入院2日以内の頭部CTもしくはMRIの施行率	87/87	100.0%	早期にCTやMRIを行うことによって、脳出血と新鮮脳梗塞を見分けることができ、また病変領域を把握することにより、適切な治療につながります。	
6	急性脳梗塞患者における入院死亡率	0/72	0.0%	脳梗塞を早期に診断し、速やかに治療を行っているかの指標になります。	
7	急性心筋梗塞患者に対する退院時アスピリンあるいは硫酸クロピドグレル処方率	21/21	100.0%	アスピリンあるいは硫酸クロピドグレルは血栓の形成を抑制する薬剤です。心筋梗塞の患者さんでは、心臓の血管内に血栓ができるのを予防するために、これらの薬剤を投与することが求められています。	
8	PCI(経皮的冠動脈インターベンション)を施行した患者(救急車搬送)の入院死亡率	0/16	0.0%	PCI(経皮的冠動脈インターベンション)とは、カテーテルという細い管を使って心臓の血管(冠動脈)を拡張する血管内治療です。心筋梗塞の患者さんの死亡率を低下させることができることから評価します。ただし本指標は、患者さんの年齢や病気の重症度をふまえたものではないことに留意する必要があります。	
9	乳癌(ステージI)の患者に対する乳房温存手術の施行率	9/9	100.0%	乳癌のステージIとは、しこりが2cm以下で、リンパ節転移を認めない状態です。美容面、QOLの観点からも治療法を考慮しているかで評価します。	
10	人工関節置換術/人工骨頭挿入術における手術部位感染予防のための抗菌薬の3日以内および7日以内の中止率	3日以内	51/55	92.7%	抗菌薬の予防投与により、術後の感染症の発生率を低下させることができます。抗菌薬を適切な期間使用しているかで評価します。ただし、術後に感染症を発症し、予防的抗菌薬から切り替えて治療を行った患者さんは、除外しています。
		7日以内	51/55	92.7%	
11	人工膝関節全置換術後の早期リハビリテーション開始率	12/12	100.0%	人工膝関節全置換術後の過度な安静は、寝たきりにならないように引き起こす原因となります。このため、早期にリハビリテーションを開始し、廃用症候群を予防していくことが重要になることから評価します。	
12	出血性胃・十二指腸潰瘍に対する内視鏡的治療(止血術)の施行率	24/38	63.2%	出血性胃・十二指腸潰瘍に対する内視鏡的治療は、持続・再出血、手術への移行の予防につながり、患者さんの負担軽減になることから、施行率で評価します。	

※上記は国立病院機構の「平成22年度医療の質の評価・公表等推進事業」における臨床指標計測マニュアルに沿ってDPCデータ、カルテ等から手作業で抽出した値のため、本社からのデータと一部違いがあります。